

第90回 日本感染症学会西日本地方会学術集会



第63回 日本感染症学会中日本地方会学術集会



第68回 日本化学療法学会西日本支部総会



ランチオン セミナー 7

司会 東北医科薬科大学 医学部 感染症学教室 **賀来 満夫** 先生

演者 佐賀大学 医学部 国際医療学講座 臨床感染症学分野 **青木 洋介** 先生

演題 「今日の医療における
各種検査の適正使用」

日時

2020年11月6日(金)
12:30~13:20

会場

第7会場
アクロス福岡6F 607会議室
〒810-0001
福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号



共催

第90回日本感染症学会西日本地方会学術集会／第63回日本感染症学会中日本地方会学術集会／第68回日本化学療法学会西日本支部総会



東ソー株式会社

TOSOH

今日の医療における各種検査の適正使用

佐賀大学 医学部 国際医療学講座 臨床感染症学分野

青木 洋介先生

医療において汎用される検査は、非特異的検査から特異的・特殊検査まで様々である。非特異的検査、あるいは一次検査としての末梢血検査および生化学検査は、診断を確定させるための検査ではないが、発熱の精査を行う際には、診断カテゴリー(感染症、腫瘍、アレルギー膠原病、など)を決めるために不可欠の検査である。白血球は上昇している時よりも減少を認めた時の方が診断寄与度は大きい(SLE、粟粒結核、ウイルス感染症、薬剤熱など)。血小板はacute phase reactantとして捉えることも重要である。白血球分画では、異型リンパ球を認めた際には、ウイルス感染症以外に、リンパ球が感作を受ける病態を示唆する(薬剤熱は好酸球上昇のみを探すのではなく、異型リンパ球を探す)。末梢血への赤芽球の出現は、溶血が無い限り、発熱の原因として悪性腫瘍の骨転移を想起すべきである。肝胆道系酵素、特にアルカリフォスファターゼの単独での上昇は、側頭動脈炎、腎細胞癌、甲状腺炎、粟粒結核等を示唆する有益な情報である。血清フェリチンの著増は、 β ラクタムを使用すべき細胞壁を有する細菌感染症を基本的に否定してくれる。このように一次検査は疾患カテゴリーの推測・設定に非常に有用であり、その後、病原微生物を検索する遺伝子検査を選択する、あるいは悪性腫瘍を疑えば腫瘍マーカーを、膠原病を疑えば自己抗体を測定する、所謂、sequential testing の戦略をとる方が、一度にあらゆる種類の検査を行うparallel testing に比較して診断に近づけてくれる結果となり、こちらの方が早道である場合が少なくない。今回は、感染症診療コンサルテーションで遭遇した実例を示しながら、このような検査適正使用が、適正な医療の実践に貢献することについて紹介したい。